

第4回日本TRIZシンポジウム 2008

の紹介

中川 徹 (大阪学院大学)

ETRIA GCG (グローバルコーディネーショングループ) 日本委員

2008年11月 7日

ETRIA 総会にて

ETRIA TRIZ Future 2008 国際会議

Twente 大学、エンスヘーデ、オランダ

主催者: NPO法人日本TRIZ協会について

昨年迄 : 少数のボランティアベースの任意法人活動

2004年5月: TRIZ懇話会発足

2005年1月: 日本TRIZ協議会へ衣替え

(3回のTRIZシンポジウムを毎年開催)

本年以降 : 会員ベースの公共的なNPO法人活動

(ボランティア活動であることは変わらず)

一東京都庁より認証を受け、

2007年12月27日に正式発足—

- 日本におけるTRIZの普及活動のセンターとして機能する。
- 我が国の技術開発力・国際競争力の強化に資するため、活動をよりオープンで全国的なものにする。
- TRIZに関心を持っている方々のより強固な結集と活動の場を継続的に提供する。

第4回TRIZシンポジウム(08/09/10-08/09/12)

林 利弘: 第4回TRIZシンポジウム 開会挨拶 (2008. 9.10) より

TRIZシンポジウムの発展

回次	主催	開催時期	開催場所	参加者	発表件数
第1回	日本TRIZ協議会	2005年 9月1日~3日	伊豆・ラフォーレ修善寺	104名	20
第2回	日本TRIZ協議会	2006年 8月31日~ 9月2日	大阪吹田・パナヒルズ大阪	157名	34
第3回	日本TRIZ協議会	2007年 8月30日~ 9月1日	新横浜・東芝研修センター	204名	34
第4回	日本TRIZ協会	2008年 9月10日~ 12日	滋賀・守山・ラフォーレ琵琶湖	167名 180名	46

第4回TRIZシンポジウム(08/09/10-08/09/12) 実施結果(2008. 9.15)

林 利弘: 第4回TRIZシンポジウム 開会挨拶 (2008. 9.10) より

第1-4回TRIZシンポジウム発表者・参加者内訳推移

2008年8月28日現在

		2005(1)	2006(2)	2007(3)	2008(今回)
論文発表者	国内				
	大学/研究機関	1	6	3	4
	一般企業	9	10	10	10
	個人/研究会ほか	2	2	6	10
	サービス提供者	5	5	5	8
海外	3	11	10	14	
計	20	34	34	46	
チュートリアル他				2	2
参加者 (講演者含む、 事前申込み ベース)	企業ユーザ(開発関係)	71	94	142	97
	教育・研究機関・コンサル	9	43	42	40
	ツールベンダー	15	2	1	7
	その他(知財、IT、個人ほか)	9	8	10	23
	計	104	147	195	167
シンポジウム終了時点の参加者			157	204	180

第4回TRIZシンポジウム(08/09/10-08/09/12)

林 利弘: 第4回TRIZシンポジウム 開会挨拶 (2008. 9.10) より

実施結果(2008. 9.15)

第4回日本TRIZシンポジウム2008 の運営方針

(1) TRIZに関わるすべての人々のための公開で活発な学会／会合

- 12月 計画概要を公表（開催期日、場所、準備スケジュール）
- 2月20日 計画を公表し、発表を募集開始**
- 3月18日 基調講演者、特別講演者を発表
- 5月15日 発表申込みの締切日：発表論文概要（拡張版 全1ページ）の提出**
チェックとレビュー：プログラム委員会（4人構成）
シンポジウムプログラム編成会議（プログラム委員会を含む、7人構成）
日本TRIZ協会運営会議（18人構成）で事前プログラムを最終決定
- 6月12日 事前プログラム（詳細、第一次）と論文概要を公表、参加者を募集開始**
- 7月28日 発表論文の最終原稿提出締切日：（スライドが必須、論文はオプション）**
チェック：プログラム委員会（4人構成）
日本TRIZ協会運営会議
翻訳作業：海外発表者原稿：英⇒和、国内発表者原稿：和⇒英
- 8月25日 参加者の登録申込みの締切日**
日本TRIZ協会運営会議
- 9月2日 論文集用の最終原稿を印刷所に渡す
- 9月10-12日 第4回TRIZシンポジウム 2008 開催（ラフォーレ琵琶湖）**

(2) できるだけ多くの発表と討論の機会を確保する

- (a) オーラル（口頭）発表：
基調講演 2件：各 60 分（45 分発表 + 15 分質疑応答） 全員参加
特別講演 1件： 40 分（30 分発表 + 10 分質疑応答） 全員参加
一般発表 23件：各 40 分（30 分発表 + 10 分質疑応答） 2会場並行
- (b) ポスター発表：
一般発表20件：3 セッション。各セッションは ポスター発表 7件が並行。
セッション構成：紹介発表（各 3分）全員参加（合計25分）
ポスター発表（70分、並行）印刷スライド 最大16枚 使用。
ー ポスターは3日間の全会期掲出。正規のセッションとしてプログラムに編成。
ほとんどすべての参加者が各ポスターセッション中に 2~3件のポスター発表を聞いた。
オーラル発表とポスター発表の選択は、（今年は）ほとんど全件 著者希望に沿った。
ポスター発表者たちは、「大いに満足」と事後のアンケートで評価した。
- (c) ベンダーによるデモ／展示
デモブースを全会期3日間設置した。
書籍、ソフトウェアツール、セミナー／研修案内など。
- (d) 「夕食と交流」のセッション： 第1日夕方、第2日夕方の両方
各2時間、立食形式、食事および飲み物。自由な交流に効果的。

(3) 基本的に国内向け（全国的）、かつ、部分的に（できるだけ多く）国際的

- (a) 公式言語：日本語と英語
- (b) オーラルセッション（「ポスター紹介」のセッションを含む）：
発表：日本語 または 英語 で発表（通訳サービスなし）
スライドの投影：日本語スライドと英語スライドを並行投影（一部は日本語スライドのみ）
質疑応答：英和、和英の両方向に通訳サービス（逐次通訳）
- (c) ポスターセッション：
発表：日本語 または 英語（通訳サービスなし）
印刷スライドのポスター：日本語 または 英語（一部は、日本語と英語と両方）
質疑応答（討論）：通訳サービスなし
- (d) 最終提出原稿：
海外著者：英語のみ。日本語への翻訳を事務局が行なう。
日本人著者：日本語版 および 英訳版
（英訳は、著者の要請に応じて事務局で支援した。）
- (e) 論文集：
英語版（海外参加者用）：基調講演、オーラル発表スライド、ポスターなど（すべて英語）
日本人参加者用：日本語スライド + 英語原文スライド（全発表について）
- (f) 評価：日本人参加者：非常に良かった、満足
日本人著者：難しい、しかし、事務局がよく支援してくれた
外国人著者：英語から日本語への翻訳、日本語から英語への翻訳に感謝する。
日本人の発表も理解可能であった。
事務局：非常に大きな負担である。ボランティア約10人の協力に感謝する。

いくつかの特徴：

- (a) 企業および企業技術者が主要な参画者である。
発表：
インテル（基調講演（Amir Roggel, イスラエル）、事例4件（マレーシアと米国））、
サムソン エレクトロメカニカル（韓国）

松下電器産業（新社名：パナソニック株式会社）、
日立、東北リコー、コガネイ、パイオニア、シャープ、コニカミノルタグループ。

（また、研究グループに属して発表したもの：
東芝、デンソー、富士通、ソニー、富士ゼロックス、横河電機、住友電工、
積水、川崎重工、積水ハウス、ブリジストン、コクヨファニチャ）
- (b) 多数企業の技術者が自主的に参加してTRIZ研究グループを形成し、発表している。
このようなグループが7つあり、9件の発表をした。
- (c) 大学におけるTRIZの研究／教育は存在しているが、数が限られている。
- (d) 『TRIZホームページ』が日本におけるTRIZの「公共Webサイト」の役割をしている。

参考：中川 徹：'Personal Report of Japan TRIZ Symposium 2008'
『TRIZホームページ』（英語ページ）に 2008年10月26日掲載。
全発表をレビューし、多数のスライドを引用して紹介。英文 65頁。